

(様式4)

食育パートナーシップ事業 ～ 直売所と連携した食育実践活動 ～

健康福祉事務所名 宝塚

1 食育推進状況

食育推進課題	管内には農業が盛んな地域もあるが、食育推進の重点対象となる子どもや保護者世代の多くは都市部やニュータウン地域に居住しているため、地域の農産物に親しむ機会が少ない。
推進方策	管内の子育て世代親子の多くは農作業に直接関わる機会が少なく、農産物は直売所等で購入することが多いが、これまで市農政担当課が直売所で調理実習を組み入れた食育活動は企画されていない。 このため、直売所を拠点とした食育活動を関係機関とともに企画・実施する。
進捗状況	直売所を拠点とし、参加者自身が食材を選んで調理する形式は初めての試みであり、概ね好評であった。しかし、現地までの交通の利便性により参加者数が大きく変わるなど、検討すべき点も明らかになった。

2 食育関係者

○関係機関	JA兵庫六甲宝塚営農支援センター JA兵庫六甲三田営農総合センター
○地域団体	宝塚いずみ会 宝塚栄養士会 三田市いずみ会 三田地域活動栄養士の会
○行政機関	宝塚市農政課 宝塚市健康推進課 三田市農業振興課 三田市健康増進課

3 食育パートナーシップ実践活動の概要

実施テーマ	都市型地産地消の推進 ～直売所と連携した食育実践活動～		
対象及び参加者数	①③小学生と保護者 20名、8名 ②地域住民 80名		
課題及び目標	これまで直売所で調理実習を組み入れた食育活動は企画されていないため、直売所を拠点とした食育活動をモデル的に実施し、各関係機関・団体が連携した食育推進方策の拡充の可能性を探る。		
事業内容	日時・場所	内容	講師・運営スタッフ
	平成27年8月21日 パスカ三田フラワー店	・講話「和食のすすめ」 ・直売所での買い物体験、調理実習	JA、栄養士会、市健康増進課、宝塚健福
	平成27年11月22日 三田市総合福祉保健センター	・1日野菜目標量の計量体験 ・デモと試食「もう1皿野菜料理を増やそう」	いずみ会、市健康増進課、宝塚健福
	平成27年12月12日 西谷夢市場	・講話「野菜の選び方」「日本型食生活について」 ・直売所での買い物体験、調理実習	JA、生産農家、栄養士会、いずみ会、市農政課、宝塚健福
評価結果	これまで連携できていなかった機関・団体間で協働した事業実施ができ、今後は各機関・団体が主体的に調整した事業展開が期待できる。 事業のねらいの1つとしていた「子どもの食の実践力習得」については、参加者数が少なかったこともあり、評価に至っていない。		

都市型地産地消の推進 ～直売所と連携した食育活動～

管内の特徴

管内には農業が盛んな地域もあるが、食育推進の重点対象となる子どもや保護者世代の多くは都市部やニュータウン地域に居住しており、農作業に直接関わる機会が少ない。これらの人々は「地産地消＝農産物を直売所で購入」という意識を持っている。

今年度の取組

これまで市農政担当課が直売所で調理実習を組み入れた食育活動は企画されていないため、直売所を拠点とした食育活動をモデル的に実施。



都市部の住民が生産者を身近に感じ、地産地消を意識するための
関係機関・団体が連携した食育推進方策の拡充の可能性を探る

実践活動の流れ

直売所と同一敷地内にある公共の調理実習室を会場に、「知る」「選ぶ」「作る」「味わう」の4要素で構成した体験型学習を実施。

知る

- ・生産者からの講話「野菜の選び方」
- ・栄養士からの講話「和食のすすめ」「日本型食生活について」

選ぶ

- ・直売所に売られている野菜を見て、触れて、選ぶ『買い物体験』
- ・選ぶテーマは お味噌汁の具にしたいもの

作る

- ・自分が選んだ野菜を使って、『お味噌汁づくり』
- ・炊きたてご飯で『おにぎりづくり』

味わう

- ・自分で作ったおにぎりとお味噌汁を親子で試食



直売所を拠点とした食育活動

< 知る >



生産者の講話は直売所内で

< 選ぶ >



< 作る >



< 味わう >



野菜摂取に関する啓発

1日目標摂取量の計量体験



「もう1皿、野菜料理を増やそう」デモと試食



生では量が多くても、加熱するとこれだけに…

今年度の評価と今後の方向性

- これまで連携できていなかった機関・団体間で協働した事業実施ができた。今後も各機関・団体が主体的に調整した事業展開が期待できる。
- 今年度の実践活動を踏まえ、次年度の事業内容の充実を検討する。
- 「未来を担う世代への食育」および「地産地消による食育」を進めるための効果的な方法の検討と、関係機関との連携強化に向けた働きかけを継続する。